



# 大根の育て方

## ●ワンポイント

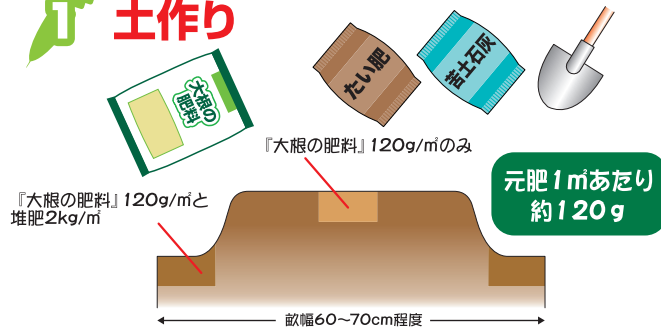
- ①大根の根にはでんぷん分解酵素が多く含まれているので、でんぷんの消化を促進し、胃もたれ、胃酸過多、二日酔い、胸やけに効果があります。
- ②大根に含まれているビタミンCは皮に多く含まれ、皮には毛細血管を強くするビタミンPも含まれていて、脳卒中の予防にも有効です。
- ③股割れを防ぐために、土は深く細かく耕しましょう。
- ④芯腐れ、サメ肌予防にホウ素入りの肥料を施しましょう！

## ●栽培カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき				■	■	■						
秋まき								■	■	■		

※時期は目安です

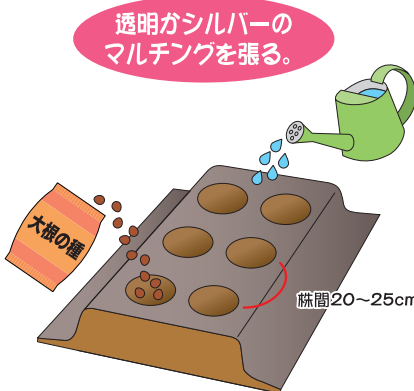
## 1 土作り



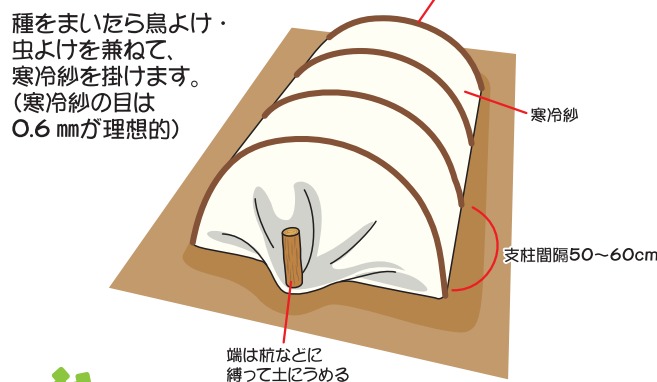
『大根の肥料』120g/m<sup>2</sup>と堆肥2kg/m<sup>2</sup>を全面に施し、深さ30cm程度良く耕します。幅70～80cm・高さ10cm程度の畝を作ります。畝の周囲に溝を掘り、『大根の肥料』120g/m<sup>2</sup>と堆肥2kg/m<sup>2</sup>を施す。養分を補う為に畝の中央に溝を掘り『大根の肥料』のみ施します。  
 ※堆肥や肥料は種をまく場所へは施さない。股割れの原因になります。

## 2 種まき

マルチングに開けた穴を5mm程度掘り、そこに大根の種を5～6粒ずつまきます。種の上から土で薄く覆い隠して土を強く押します。ハス口のついたジョウロで水をたっぷり与えます。



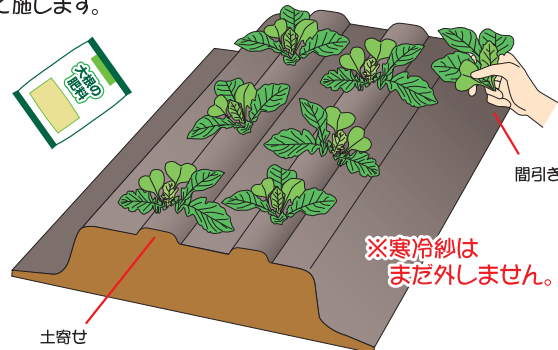
## 3 寒冷紗をかける



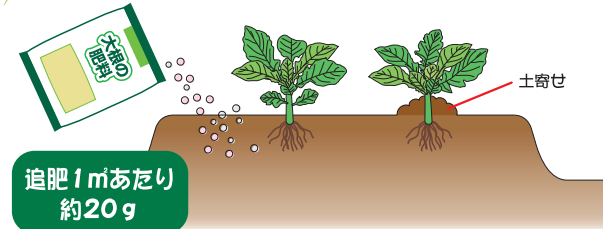
種をまいたら鳥よけ・虫よけを兼ねて、寒冷紗を掛けます。(寒冷紗の目は0.6mmが理想的)

## 4 間引き(1回目)

本葉が1～2枚開いた頃、発芽遅れや混み合った株を間引いて1ヶ所3株にします。間引きの後、水やりをして株元へ土寄せをして株を直立たせます。その際、大根の肥料20g/m<sup>2</sup>をマルチングの両脇に溝を掘って施します。

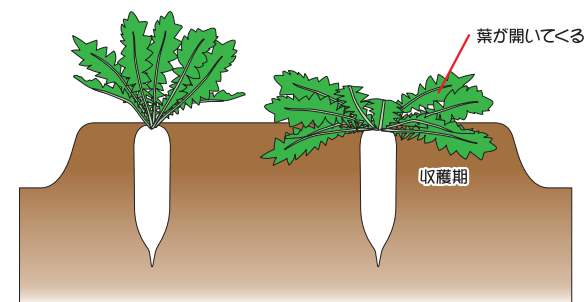


## 5 間引き(2回目)



本葉が5～6枚開いた頃、1ヶ所に1株になるように間引きします。株元へ土を盛るように土寄せをし、『大根の肥料』20g/m<sup>2</sup>をマルチングの両脇に溝を掘って施します。ここで寒冷紗を外します。  
 ※シンクイムシの被害に注意します。芯の部分にクモの巣が張っていたら要注意！ 急いで捕殺。

## 6 収穫



大根の首がコブシ大になり、外葉がたれ、中心部の葉が広がってくれば収穫適期です。  
 ※秋まきは春まきに比べ、ゆっくり収穫しても大丈夫ですが、遅れるとスガ入り食味が落ちます。

